

タイの高校生が結城を訪問

タイの高校生4人と高校の教師9人が4月17日から4月25日まで、結城市内などに滞在。結城市の高校生や中学生と交流したり、結城紬を来て日本文化に触れて、交流を深めました。

結城市を訪問したのは、タイ北部のメーサイ高校とパヤオピタヤコム高校の生徒と教師ら。コロナ前の2019年まで、結城市がタイのメーサイ市と姉妹都市を結んでいる縁で、メーサイ高校とパヤオピタヤコム高校、結城市の結城一高、結城二高、鬼怒商の生徒が相互に訪問し、交流を深めていました。今回は、結城市国際交流協会（臼井平八郎会長）と茨城国際親善厚生財団・IIF（多田正毅会長）の招きで、結城市を訪れました。

17日は、結城市を表敬訪問したのち、城西病院で結城市の小林栄市長や結城一高の柴山佳美校長らを招いて歓迎会を開き、タイの高校生が民族舞踊を披露しました。

20日は、全員が結城紬を身にまとい、結城市内の風情ある市街地を散策しました。

21日には結城市内の小中学校を訪問。結城中学校では生徒とともに学校給食を味わいました。

22日には結城一高を訪問。同校生徒会主催の交流事業「結（むすび）プロジェクト」が行われました。交流会には、タイの高校生とニュージーランドから結



城市の高校生と対面交流を目的に結城市でホームステイしている高校生20人が参加。3カ国による高校生が、自己紹介によるビンゴゲームやミニ対抗リレー、数字を推測して番号通りに並ぶ「数字当てチェンジ」などのゲームを楽しみました。

2026年4月28日

